

〈作詩者・作曲者の紹介〉

かない
金井

ちよく
直先生



☆一九二六年、東京生まれ。一九四三年から詩作開始。一九四五年四月、空襲で生家消失。六月、入隊。八月、広島市外で原爆を目撃。九月末復員。焦土の中で絵画を志し、寺内万次郎氏に師事。一九四九年、絵画を断念して詩作に専念。

☆一九五七年、詩集『飢渴』で第七回日氏賞を、一九六三年、詩集『無実の歌』で第六回高村光太郎賞をそれぞれ受賞。一九八九年から再び画（油彩）を始める。

☆現在、日本文芸家協会会員。

☆主な著作。詩集『埋もれた手記』（彌生書房）『へ幽』という女』（国文社）『言葉の影』（八坂書房）など。エッセイ集『乏しき時代の抒情』（右文書院）『詩の指導に関する質疑応答』（光村教育図書）『失われた心を求めて』（自然と科学社）など。児童詩に関する書『ぼくの詩わたしの詩』（偕成社）『詩をつくろう』（小峰書店）、童話『ししやも』（文化出版局）『おりづるのゆめ』（小峰書店）など多数。

☆詩『木琴』（『愛と死の歌』彌生書房刊）が中学校一学年国語教科書に収録され、岩河三郎氏により合唱曲として作曲されて、全国の中学生の根強い人気を得ている。

いわかわ さぶろう
岩河三郎先生



☆一九二三年、富山市生まれ。一九四七年、東京音楽学校（現東京芸術大学）声楽科卒業。作曲に転じ、平井康三郎、池内友次郎両氏に師事。

☆一九四七年、NHK「夕べの音楽」の時間に新人作曲家としてデビュー。以来NHKを中心に放送及びレコード関係の作曲・編曲に専念。一九五四年、NHK音楽祭ホームソング部門に入賞。一九六八年、NHKのマスコミメモロディに、音詩『冬山に逝ける若者への祈り』が日本吹奏楽指揮者協会作曲コンクール第一位にそれぞれ入賞。一九七一年、札幌オリンピック行進曲作曲。

☆現在、日本作曲家協議会、詩と音楽の会、日本童謡協会所属。元山口大学教授。

☆主な作品。合唱組曲『祭りと子ども』『佐渡の四季』『星の絵本』『武蔵野の子ども』『嫁ぐ日に』『山 四章』『海の風景』『川よ 虹と星よ』など。合唱曲『石仏』『野性の馬』『一羽の鳥』『一日に何度も』『たじま牛』など多数。